

発展成長する会社と低迷衰退する会社の差

社長がせっかちで、行動力があり、パワフル。いつ休んでいるのかと思う程、年中無休で、働いている会社は、成長発展しています。しかも、社長が活き活きと、笑顔で、周囲まで明るくしています。

片や、社長室に引きこもり、マネジメントと称して、日がな一日、社員の「管理が仕事」と考えている社長の会社は、低迷衰退しています。

いくつか、発展成長する会社と低迷衰退する会社の共通する特徴を挙げてみます。参考になさってください。また、弊社の所員と語りあって下さい。

良い商品・良い技術・良いサービスこそが、最高の営業力と考えて取り組んでいる会社は発展成長します。新規開拓こそが、営業力と考えている会社は、ノルマで社員が疲弊し、社員の定着率も悪く、長期的には危険な会社と言えるのです。

社員の一人一人が、会社の方針を理解し、会社全体の事を考えている会社は、発展成長します。逆に、社員が自分個人に有利か不利か、得か損かを優先する会社は、低迷衰退する会社と観て間違いありません。

研修に社長や幹部が積極的に参加し、社員の成長を期待している会社と、研修を外部に丸投げし、社長や幹部は誰も参加しない会社との差にも現われます。

社長室に入ると、本棚には読みたくなるような本や、雑誌が並んでいる会社は、間違いなく発展成長しています。社長室にゴルフの優勝トロフィーや、パター練習機がある様な会社は低迷衰退を予期します。ワインセラーが置いてある社長室ならば、公私混同を社員に知らせている最悪の会社と言えます。

観葉植物が枯れていても気づかない会社は、低迷衰退の傾向にあると考えて間違いありません。おそらく、本業の仕事にも、心が配れていない証拠です。

その他、社員が財産と言いながら、給料が安いというのも、如何がでしょうか。

社長は、経営理念を説く“宣教師”であるべきで、自分一人が絶対正しい“教祖”になってはいけません。社員に希望を語る社長になりましょう。ゆめゆめ、社員の将来に不安を持たせないことです。

社長、お互いに会社の発展成長のため、切磋琢磨して参りましょう。



今月のポイント

発展成長のコツを掴むこと。